

宮城の選別施設視察

震災がれき
広域処理
市町連絡会議の18人

県は十六日、東日本大震災で生じた災害廃棄物の広域処理について、市町連絡会議の事務担当者を対象と

開いた。この日は、石巻市

雲雀野町二丁目の震災廃棄物選別処理施設（石巻プロ

視察したがれきの破碎選別場Ⅱ宮城県石巻市内で（県提供）



ック）で仮焼却炉稼働状況を見学した。十七日は女川町を視察する。

市町連絡会議の二十九市

町八組合のうち、いなべ市▽四日市市▽津市▽多気町▽明和町▽南伊勢町▽名張市▽尾鷲市▽伊賀南部環境衛生組合▽桑名広域清掃事業組合▽町村会一の十一団体から十八人が参加した。協議が開会中だったり、予定がないなどの理由で欠席

があったという。宮城県庁内の環境省宮城県内支援チームが窓口となり、視察地を調整した。岩手県には同チームがなく、宮城県内にとどめたという。

石巻市は津波被害が大きかったため、選別処理施設も大規模で、石巻港埠頭には廃棄物が積み上げられ、重機で作業が続いている。一行は、混合ごみを木くずや廃プラスチックに分ける破碎選別処理工程を見学し、混合ごみを三十センチ以下に破碎した後、機械と手作業で選別していくラインを視察した。仮設焼却炉五基のうち一基が稼働に向けて火入れしており、夏までに全基が稼働すると説明を受け、現地で処理できる量が増えるだろうとの説明を受けたという。